

学術発表演習

Academic Presentation Practice

キーワード

- ① 学術発表
- ② 学術論文
- ③ 投稿規定
- ④ 抄録
- ⑤ パラグラフ

授業概要

研究成果を広く公表するために、学術発表および学術論文の公表の基本を習得することを目的とする。具体的には、学術発表方法として(1)抄録の作成方法、(2)口演・ポスター発表方法、論文執筆方法として(3)投稿雑誌の選定・投稿規定・執筆の検討、(4)論文の推敲・パラグラフの構成・図表作成方法、(5)査読結果への対応、校正、投稿方法、(6)実験系原著論文の特徴、(7)臨床系原著論文の特徴について講義する。さらに、学術発表演習を通じて、研究者としての課題に対する考え方を俯瞰的にとらえる能力を討論を通じて身につけさせる。

授業科目の学修目標

本科目では、研究成果を広く公表するために必要とされる学術発表および学術論文発表の方法論について、学術発表方法の知識と学術論文の構造に着目し、俯瞰的な知識・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① 学術発表の方法論
・抄録の作成、口演・ポスター発表 4コマ 吉野文彦
- ② 論文執筆の方法論
・投稿雑誌の選定・投稿規定・執筆 2コマ 猿田樹理
・論文の推敲・パラグラフの校正・図表作成 1コマ 吉野文彦 (部外)
・査読結果への対応、校正、投稿方法 1コマ 高橋俊介
- ③ 実験系原著論文の仕組み
・機能系 2コマ 高橋俊介
・形態系 2コマ 松尾雅斗
- ④ 臨床系原著論文の仕組み 2コマ 森本佳成
- ⑤ 振り返り学習 1コマ 吉野文彦

教科書および参考書

これから論文を書く若者のために 共立出版 酒井聡樹 著

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

学術発表演習では授業項目で定められた学術発表方法の知識と学術論文の仕組みを理解することが求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 学術発表の方法について説明できる。
- ② 論文執筆の方法について応用できる。
- ③ 実験系原著論文の仕組みについて説明できる。
- ④ 臨床系原著論文の仕組みについて説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
40%	30%	30%	0%	0%	0%	0%

評価の要点

小テスト(15回×2% : 30%)とレポート(15回×2% : 30%)は、授業終了後、毎回行う。※ビデオ視聴の回は0点
最終第15回にまとめ試験を行う(1回40%)

理想的な達成レベルの目安

学術発表演習の理想的な達成レベルは80%以上とする。